知事記者会見（平成２２年７月１２日）

●知事発表
　　な　し

●幹事社質問
（１）参議院選挙の結果について

●その他の質問
（１）消費税の議論のあり方について

時間：１１：００～１１：２９
場所：プレゼンテーションルーム

（幹事社）
　よろしくお願いいたします。
　昨日１１日、参院選の投開票が行われ、その結果が明らかになりました。これについて佐竹知事に３点、ポイントを絞ってお尋ねしたいと思います。
　まず第１点ですが、秋田県選挙区の結果について、自民党新人の石井浩郎氏が民主党現職の鈴木陽悦氏に１０万票の差をつけて当選されました。知事はこの結果をどう受け止められますでしょうか。

（知　事）
　その前に一つだけ、大変きれいな、トルコギキョウという花を飾っています。これは「こまちホワイトドレス」という名前だそうですけれども、花き種苗センターで栽培したトルコギキョウです。農業試験場で育成した、県のオリジナル品種ということで、昨年５月に品種登録の出願をしています。花びらの重なりが厚く、大変きれいな花です。昨年の１１月に開催されましたジャパンフラワーセレクション、新品種のコンテストだそうですけれども、それで入賞しています。今年は６０戸ほどの農家で作って、もうすぐ初出荷ということのようです。１７ヘクタールぐらいで栽培しているということで、本県を代表する花になるのではないかと思って、ちょっとご紹介させていただきました。
　それでは、本題に移ります。
　本県選挙区で自民党新人の石井さんが当選されたということですが、これは、今回の民主党全体に対する評価が根底にあったと言えるのではないかと思います。それにプラスして、今までと自民党さんも趣きを変えて、若いスポーツマンということで個人的な知名度もあり、大変エネルギッシュな方、プロ野球等々で中央でも活躍された方ですが、秋田県人的な、人柄というものもにじみ出ている方です。そういうことと、政権交代により、危機感を持っていた自民党の関係者が大変力を入れて選挙運動を展開したと。多分この３つ

ぐらいが重なり合って、最終的に石井さんの当選に結びついたのかなという感じがしています。

（幹事社）

それでは２点目ですが、国政の方に目を転じますと、今回民主党が４４議席でしたでしょうか、過半数割れに追い込まれる状況になりました。一方で自民党が議席を伸ばすという状況になって、衆参のねじれの現象が起きるという状況になっております。知事はこうした状況を、まず民主党がこういうふうに議席を減らしたことに関して原因等、理由等どうお考えでしょうか。

（知　事）

私もこれほどの差になるとはちょっと想像していませんでした。もうちょっと拮抗した形なのかなと思っていました。選挙間近になってからの消費税論議もあるかと思いますけれども、やはりこの９カ月間、昨年の政権交代からの民主党の政治手法等々に対して、国民の皆さんが落ち着きを取り戻した中で評価をすると、必ずしも民主党には合格点をあげるまでには至らないという評価をしたのではないかと思います。これは普天間の問題、後になっては消費税の問題、あるいは子ども手当とか高等学校の無償化等々、生活に視点を置いたと言いつつも、いろいろなところで、何といいますか、全体の整合性が取れてないという中で、一方でマニフェストに固執したり、途中からマニフェストについては修正という方向になりましたけれども、そこら辺があまりにも頑なに進め過ぎたということ。あるいは、地域主権、あるいは地方分権と言っていますけれども、ものの決め方が強引で、国会運営も自民党時代よりも上意下達といいますか、地方の声にもなかなか耳を傾けないということで、民主党さんのイメージがかなり強権的になってきたという点も全体の評価につながったのではないかと思います。

一方で、比例区の方では、それで自民党に（票が）かなり行ったかというと必ずしもそうでもなく・・・選挙区では政党のみならず、その候補者の要素もかなりありますので、そういうことで自民党も頑張ったようですけれども、全体として、確実に自民党を評価し直すというところまでは至っていない、というのが比例区の様子ではないのかなという感じがします。

（幹事社）

有権者が、民主党に対して抱いた、知事も合格点までには至らないという指摘があったというふうにみていらっしゃいますが、有権者が一番その不満に思ってたものというのは何だったと思われますか。

（知　事）

１つは、政治と金の問題、民主党が今まで一番声を大きくしていたところをすっと逃げたというところ。それと民主党の中の党内運営が、新人が多いからかもしれませんけれども、外からは民主的に見えないという感じがするということ。もう一つは、マニフェストを作るときに財源問題まで踏み込まずに景気のいいことを言ったんですけれども、そうな

らなかったという、これはしょうがない話ですけれども、目論見どおりにはいかなかった点について、もう少しやわらかく、言い訳せずに国民に理解を求ればまた違った（結果になった）でしょうけれども、最終的にそれは前の自公政権が悪いという責任転嫁をしてしまいましたので、これは政治の世界というのは、良し悪しを別にして変わった途端に前のいろいろな事象も自らが背負わなければならないんです。それを前政権が駄目だったから大変だと、これは普通あまり言わないです。これを声高にしゃべったというあたりが、潔さも感じられないという中で、今度は唐突に消費税の論議が出てきたと。しかもその消費税の論議については、選挙慣れしてるというか政治にある程度興味のある方は、官僚主導から政治主導って言われたけれども財務大臣になった途端に財務省から入れ知恵されたのではないかとかいう憶測まで呼びまして、その幾つかの要素が重なった結果、前の鳩山さんの影も引きずりながら、何となく菅さんに代わっても民主党に対しては、皆さんがこのままでは任せられないよという形ではないのかなと思います。

（幹事社）

それでは、ポイントの３つ目ですが、比例区で、今回、秋田県から３人の方が立候補されて、前県知事の寺田典城氏が当選されました。佐竹知事、これからいろんな場面で国会議員と知事というお立場で顔を合わせることがあると思いますが、寺田前知事の当選についてはどう受け止められますか。

（知　事）

比例区では、「みんなの党」が、渡辺党首の非常に分かりやすい庶民受けするスタイル、あるいはキャラクター、あるいは分かりやすいアジェンダという点についてかなり期待が持たれて、第三極としてはいろんな政党が出た中で、「みんなの党」に（票が）集まったと思います。そういう意味では、民主党について不満を持っているけれどもダイレクトに全部自民党に戻せないという、国民の非常に賢明な選択ではないのかと思います。

そういう中、寺田さんが秋田の代表という形で比例区で当選されたわけですが、私は基本的に人口の少ないところの（議員の）定数が減ってきて、なかなか人口の少ない地域から国会議員になれるという要素が少なくなってきているわけですので、前知事は、特に地方分権に熱心な方で、また、国の行財政改革にはかなり苦言といいますか注文の多かった方ですので、そういう意味では県の出身者が増えたということは、私はそれはプラスではないかと思います。県内の事情にも十分詳しい方ですので、当然、国の課題に対して数少ない知事経験者として、いろいろ提言をしていただけるでしょうし、また、秋田県の応援団にもなっていただけるのではないのかなと思って、県政にとってプラスになると考えています。

（幹事社）

一つ聞き漏らしました。石井さんが当選されて、石井さんにまず何を期待されますでしょうか。

（知　事）

衆議院と参議院の構成はもともと違いますので、石井さんは大変素直で人柄のいい方です。ただ、参議院という性格上、あまり肩に力を入れて公約をと言っても、なかなかそう簡単にはいかない面もあります。非常に熱意がありますので、石井さんらしさを出して、できるできないは別にして思う存分発言していただきたいと思います。（政治の）素人だからといって完全に埋没するようなことのないようにしていただければと思います。

（幹事社）

幹事社から以上です。皆さんどうぞ。

（記　者）

先ほど消費税の件も少しお話に出ましたけれども、今回、消費税が一つの争点みたいな形で、クローズアップされて今回の結果になったわけですけれども、これを受けて消費税に関する議論が停滞するのではないかという指摘も出ていますけれども、今後の議論のあり方について知事のお考えを改めて伺います。

（知　事）

私は、消費税について昔ほど国民の拒否反応はなくなって、消費税について受け入れると、増税は仕方がない、あるいは必要だという方が増えていると思います。ただ、今回のこの問題によって、消費税を言い出すとその政党は負けるというように固定化されると、この後（消費税の議論が）進まないのかなと。今の日本の税制制度がいいのか、必ずしも今のものが私は望ましいとは思っていませんので、（税制）全体の議論をしながらその中で消費税についても十分議論すると、野党といえども日本の将来の財政には責任を持つべきで、何も与党だけが責任持つわけではないです。そういう意味では、この問題については賛成反対の立場はあるかと思いますけれども、きっちりした形で与野党ともこの税制改革について話し合ってほしいものだと思います。そういう過程の中で丁寧な情報公開、丁寧な説明、こういう場合はこうなるということを国民の皆さんにお知らせして国民の皆さんの理解を得ながら、ある時期に税制改革をするという方向に持っていくべきではないかと思います。

もう一つは、衆参がいわゆるねじれになりますので、このねじれがそのまま続くのか、このままでいくといろんな問題が起きますので、場合によっては政界再編となるとすると、非常に大きな問題はこの消費税になるのかなと思います。なぜかというと、消費税、いわゆる税制全体を改革するとなりますと、当然、税だけでは済まずに、全体の無駄の排除とか行財政改革をきちっとした形で示さないと、国民も納得しないでしょうから、消費税の論議と行財政改革は、一体的な形になると思います。特に、地方に比べますと国の行財政、特に行政改革は全く進んでないというのが現状ですので、我々としては、そういう点で国の行政改革を進めながら地方消費税というものの位置づけも考えていただき、将来の税のあり方について、とにかくきちんとした議論をしていただきたいというのが望みです。

（記　者）

参議院選挙にちょっと話が戻るんですけれども、最近の参議院選挙の結果ですけれども、

齊藤滋宣さんしかり、金田さんは２期やられましたけれども、鈴木さん、齊藤さんは１期務められて落選ということなんです。いわば６年というのはそれなりに長いかもしれないんですけれども、１期ということで結構短命に終わってるかなと思うんですけれど、その点についていかがでしょうか。

（知　事）

ここら辺が非常に難しいんですけれども、衆議院の場合はいつ解散があるか分からないということで、活動の内容について後援会などを通じて、割とこまめにやっているのではないでしょうか。ただ、この参議院になると、選挙区が広いということで物理的にも非常に難しい点がありますけれども、６年となりますと・・・政治に近いところにいない方は、「そういえば、うちの参議院議員はそういう名前の人だったね」という、「５年間忘れてた」という方も結構多いと思うんです。参議院の制度そのものにも問題があるでしょうし、参議院も衆議院の方も、マニフェスト、公約が全く同じなんです。ところがそもそも参議院はそういう形で構成されていませんので、あまり参議院の人が、これをやる、あれをやるといっても、現実にはそうはいかないんです。そういうことからの失望感も出てきますので、参議院制度の宿命みたいなものが、短期で（議員が）変わるという形になってきているのかなという感じで受け止めてます。

（記　者）

もう１点なんですけれども、いわゆるタレント候補というのが、全国でも当選しているかと思うんですけれども、秋田県に目を転じてみても鈴木陽悦さんと、その次は松浦大悟さんで、今回は石井浩郎さんと、ある程度知名度がある人が結果的に勝っているというような印象を受けるんですけれども、その点に関して知事はどのようにお考えでしょうか。

（知　事）

私としては、どこまでがタレントなのか、なかなか難しいんですけれども、知名度だけの選挙になりますと、ますますきちんと政治を勉強してという方が、（選挙に）出にくくなるというのは非常にマイナスではないのかなと思います。確かにパフォーマンスをして、人気を得るというのもいいんですけれども、少なくともタレント候補の方というか、いろんなパターンがありますけれども、（選挙に）落ちたり（議員を）辞めても、その後もいろんな面で保証されてるような雰囲気があると思います。保証というのは政党が保証するというのではなくて、駄目でも芸能活動、タレント活動に戻ったりする方もいますから・・・そういう点で気楽にものも言えると思いますけれども、気楽にものを言えば言うほど空虚に聞こえるという点もありますので、ここら辺が情報化社会の中では致し方ないんですけれども、やはり知名度だけでというのも我々からすると物足りないなという感じがします。

（記　者）

今回の選挙の結果で衆参が完全なねじれ現象になりました。それで３年前の参議院選挙の結果で同じようなねじれ現象が起こって、ガソリンの値段が一時的に下がったり、日銀

の総裁が空席になったり、自衛隊がインド洋から撤退したりということが起こりましたが、非常に政権というか国会での法案の審議の遅れも懸念されるんですが、地方自治体の長として与野党にどういう視点で今後の国会運営というか、政策協議に臨んでほしいという希望がありますでしょうか。

（知　事）

かつての５５年体制のように、政治体制の選択ではありませんので、何らかの差異を出すとすると非常に身近な問題で違いを強調しないと国民に分かりにくいということもありますが、自民党も民主党も、基本的には自由資本主義なんです。そうしますと、あまりテクニカルなことに走らずに、意地の張り合いをやるというのはやめていただきたいと、いわゆる、政党の駆け引きのネタに様々な問題を使ってほしくないなと思います。逆に言うと、先ほどの税制改革みたいな問題は大いにオープンにして、すぐに結論を出さなくてもいいわけですから堂々と議論してほしいと思います。

ただ、国会運営にかかわる点については、経済状況もこういう状況ですし、諸外国が動いていますので、現実的な選択をして野党も与党も歩み寄ってやらないと、困るのではないかと思います。民主党もそこが反省点だと思います。自民党が出すものについてはとにかく全部反対にしないと自分の政党の存続の価値がないように考えてしまって・・・今度は自民党が譲るものは譲って、考え方の根底はそんなに違っていないと思いますので、そこは調整をしていただきたいなと思います。

特に来年度の予算編成がもうすぐ、８月に概算要求もありますし、国際的ないろんな問題も抱えていますので、民主党もあまり我を張らずに、下ろすものは下ろしてやっていかないと。一番被害を被るのは国民ですから。

（記　者）

一番最初の秋田選挙区の結果についての質問の裏返しになってしまうんですけれども、現職の鈴木さんが今回の１０万の差をつけられて大敗したという、その結果についてはどのように分析されていますか。

（知　事）

先ほど言ったとおりですけれども、民主党全体への逆風というのが一つと。民主党に入るのが非常に遅かったという、政治的な立場が無所属、最終的には民主党という形でしたけれども、民主党の候補としても紆余曲折があり、支持者層の中で、あるいは支持団体の中で足並みの乱れというものがあったのではないかと思います。

大分陣営の中で、今までいろいろありましたから、そういう点がマイナスに作用している点は否めないと思います。

（記　者）

鈴木さん個人の６年間の実績の批判もあるという声もありますが、その点はいかがでしょう。

（知　事）

災害対策委員長とか、結構いろんな面で鈴木さんなりに頑張ってきたと私は思うんですけれども、一つの限界というのは、やはりどうしても組織的なものと当時の風なんです。そうすると風の部分というのは過ぎると分からなくなる。組織的なところ、どちらかというと労組が中心ですので、労組そのものがどんどん減っていますし、自民党支持層も含めた一般の方への情報発信の機会は少なかったのではないかと思います。その点がこういう選挙になりますとマイナスになったのかなという感じがします。

（記　者）

最後に。寺田前知事に対しては現在の県知事としてどんなことを望まれますか、国会議員として。

（知　事）

菅さんになってから地域主権の方も、ちょっとトーンダウンしたと感じています。例の権限移譲もその中に入りますし、一括交付金もこの前の方針では、国の関与がかなり残りそうな感じです。寺田さん自身、知事当時から、この地域主権、あるいは一括交付金について意見をお持ちです。そういう点で地方の立場からの国への発言というものの最大の経験者ですので、大いに頑張っていただきたいなということです。

（幹事社）

皆さんよろしいですか。

それではこれで終了させていただきます。ありがとうございました。